

日本道德教育方法学会第 25 回研究発表大会 プログラム

期日：2019年6月8日（土）、9日（日）

会場：神戸市外国語大学 〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

大会準備委員会 委員長 谷田 増幸（兵庫教育大学）

大会事務局 事務局長 岡本 義裕（神戸市外国語大学）

主催：日本道德教育方法学会

共催：神戸市外国語大学

大会参加費 2,000円・・・会員、非会員とも。当日、受付にて徴収します。

懇親会費 4,000円・・・懇親会は、会員、非会員を問わず参加できます。会員は参加申込用紙で、非会員は当日、受付にてお申し込みください。

【第1日】6月8日（土）

11:00 12:30 13:00 14:55 15:10 17:40 18:00 20:00

理事会 (スチューデント コモンズ「オープ ンスペース」)	受 付	自由課題研究発表 分科会Ⅰ～分科会Ⅳ	シンポジウム (大ホール)	懇親会 (三木記念会館)
--	--------	-----------------------	------------------	-----------------

会員控室（102 教室）

理事会 11時00分～13時00分（スチューデントコモンズ「オープンスペース」）

受付 12時30分～（学舎1階ロビー）

自由課題研究発表（発表25分・質疑30分）

分科会Ⅰ（106 教室） 司会：金光 靖樹（大阪教育大学）

13:00～13:55 ① 道德科授業における学習内容と発問に関する研究
～授業のユニバーサルデザイン化に向けて～

坂本 哲彦（山口市立上郷小学校）

14:00～14:55 ② 小学校若手教員への道德教育に関する校内研修の在り方
谷口 雄一（摂南大学）

分科会Ⅱ（204 教室） 司会：渡邊 満（広島文化学園大学）

13:00～13:55 ① 生徒による自己評価の活用と記述式評価の展望
中山 芳明（京都市立藤森中学校）

14:00～14:55 ② 授業記録から考える授業改善の方途
齋藤 嘉則（香川大学）

分科会Ⅲ（206 教室） 司会：七條 正典（高松大学）

13:00～13:55 ① Be ambitious の考究

大庭 茂美（九州女子短期大学【名誉】）

14:00～14:55 ② 主体的・対話的な高等学校討議型道德の授業開発

○ 小川 哲哉（茨城大学）

石井 純一（茨城県立水戸第二高等学校）

宮本 夏海（茨城県立小瀬高等学校）

渡邊 哲郎（茨城県教育庁）

長島 利行（茨城県教育庁）

分科会Ⅳ（208 教室） 司会：柴原 弘志（京都産業大学）

13:00～13:55 ① 小学校低学年と「日本の伝統と文化」を考え、「愛国心」へ

～子どもにとっても教師にとっても面白く楽しい授業を目指して・「うつくしいわがし」
（小学校低学年）での実践～

松原 弘（大阪府和泉市立郷荘中学校）

14:00～14:55 ② 教科化によって強まる地域・家庭との連携

東風 安生（北陸大学）

テーマ：学校教育の行方と道徳科の未来

企画趣旨

今年度、中学校でも「特別の教科 道徳」がスタートした。道徳科時代の本格的な幕開けである。これから学校現場では、道徳科時代の道徳教育・道徳授業のあり方について、実践的な知見を蓄積し充実させていくことが期待されている。

こうした現状の中でしばらくは、「何をすればいいのか」「どうすればよいのか」といった実践的で具体的な対応を探ることが必要となるだろう。ただし、「なぜこうするのか」「なぜこのように変えたのか」という意図を理解せずに、ただ対症療法的に「何をすればよいのか」「どうすればよいのか」ということだけを求めていると、学校現場が（もちろん研究の世界も）教科化という改革に振り回されるだけとなってしまうかねない。改革という嵐に翻弄されて道を見失わないためには、道徳科時代を突き進むための「羅針盤」が必要となる。

では、この羅針盤をどこに求めたらよいのだろうか。まず、学習指導要領や解説を読むことは当然のことであり、それらの改訂作業の背後にあった考えを知ることも重要である。具体的には、教科化の議論の土台をなす中央教育審議会答申や、道徳教育の充実に関する懇談会の報告書を読み、道徳の教科化が何をめざした改革だったのかを十分に理解することが不可欠である。

加えて、2017年に改訂された新学習指導要領がどのような学びをめざしているのかという、学校教育における学びの方向性に照らして道徳科を理解することも重要である。新学習指導要領では各教科・領域において「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められ、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（「見方・考え方」）の鍛錬を意識した学びの創造が期待されている。そして、そうした学びを実現するために教科横断的な視点で教育課程を組み立てること（カリキュラム・マネジメント）が必要とされ、「社会に開かれた教育課程」が理念として謳われている。子どものたちの学びがどこへ向かおうとしているのかという観点から道徳科の授業を捉えることで、道徳科のめざす理念が一層明確になることが期待できるだろう。

そこで、今回のシンポジウムでは、新学習指導要領によって示された学校教育の行方を考慮しながら、道徳科時代の道徳科のあり方について議論し、道徳科の「未来予想図」を大胆に描いてみたい。

◇ シンポジスト

- カリキュラム研究の立場から
磯田 文雄（名古屋大学）
- 道徳教育研究の立場から
谷田 増幸（兵庫教育大学）
- 学校現場の立場から
竹本 晋也（兵庫県西脇市立重春小学校）

◇ 司 会

- 島 恒生（畿央大学）
- 小林 万里子（岡山大学）

【第2日】6月9日（日）

8:30 9:00 11:55 12:00 12:55 13:05 13:55 14:00 16:00

受付	自由課題研究発表 分科会Ⅴ～分科会Ⅷ	<昼食> 評議員会 (スチューデント コモンズ「オープ ンスペース」)	会員総会 (大ホール)	課題研究 (大ホール)
----	-----------------------	---	----------------	----------------

会員控室（102 教室）

受付 8時30分～（学舎1階ロビー）

自由課題研究発表（発表25分・質疑30分）

分科会Ⅴ（106 教室） 司会：押谷 由夫（武庫川女子大学）

- 9:00～ 9:55 ① 資料即生活論の経緯と現代的授業構想
～井上治郎「資料論・授業論」を基底とした「考え、議論する」道德授業～
吉田 浩一（福岡県中間市立中間北小学校／放送大学大学院【院】）
- 10:00～10:55 ② 「自覚」概念の再考による道德授業への示唆ー木村素衛の思想を手掛かりとしてー
三宅 浩司（松山市立潮見小学校／兵庫教育大学大学院【院】）
- 11:00～11:55 ③ 勝田守一の道德教育論
上地 完治（琉球大学）

分科会Ⅵ（204 教室） 司会：田沼 茂紀（國學院大學）

- 9:00～ 9:55 ① 子どもの自己評価力を伸ばすー教科化1年目の成果と課題からー
鈴木 賢一（愛知県あま市立七宝小学校）
- 10:00～10:55 ② 児童生徒の「自己評価力」を育成する道德科授業の在り方
～「動き」のある授業をととして～
○ 杉中 康平（四天王寺大学）
磯部 一雄（札幌市立北野台中学校）
- 11:00～11:55 ③ 自己評価力を育てる“対話”
○ 柴田 八重子（愛知淑徳大学【非】）
増田 千晴（愛知県古知野市立古知野中学校）
西尾 寛子（愛知県津島市立西小学校）

分科会Ⅶ（206 教室） 司会：永田 繁雄（東京学芸大学）

- 9:00～ 9:55 ① 道德科の学習における教師の“きく”を捉え直す
竹本 晋也（兵庫県西脇市立重春小学校）
- 10:00～10:55 ② 道德教育の方法論の解明に関する基礎的研究ー『道德教育』を中心にー
高口 涼（静岡県函南町立東小学校）
- 11:00～11:55 ③ 子どもの気付きを引き出す新たな体験的学習の手法を探る
○ 丸岡 慎弥（大阪市立香簀小学校）
更谷 奨平（大阪市立香簀小学校）
橋本 純子（大阪市立香簀小学校）

分科会Ⅷ（208 教室） 司会：田邊 重任（高知学園短期大学）

- 9:00～ 9:55 ① 周辺人物の心情まで想像を広げる道德科学習指導方法の改善
水上 栄一（福岡教育大学）
- 10:00～10:55 ② 教材分析の違いは授業にどのような違いを生むのか
中山 真樹（大阪府高槻市立竹の内小学校）

評議員会 12時00分～12時55分（スチューデントコモンズ「オープンスペース」）

会員総会 13時05分～13時55分（大ホール）

※ 第2日の昼食については、各自でご持参ください。大学構内の生協（食堂・売店）はご利用いただけません。
尚、駅周辺にはスーパーマーケットやコンビニエンスストア、ファーストフード店等飲食店もございます。

テーマ：道徳科における指導と評価の一体化をめぐる諸問題

— 小・中学校の実践事例から —

企画趣旨

昨年度から小学校で始まった「道徳科」の授業は、4月からは中学校で全面実施に至っている。各学校の授業実践の蓄積は、小学校ではまだ1年、中学校では3か月にも満たないが、道徳科の実施に向けた準備段階の期間を含めれば、すでに数多くの優れた実践が積み上げられてきたと言ってよい。本課題研究の主要テーマは、道徳科のスタートダッシュにあたるこの時期に、これまでの道徳科の実践的蓄積を見直し、道徳科の実践的課題をあらためて確認することにある。

その際に注目したいのは、道徳科における指導と評価の問題である。道徳の指導と評価をどのように行うのかについては、すでに「道徳の時間」以来様々な議論がなされてきた。しかし、道徳科においては、「考え、議論する」プロセスが重視されるようになったことで、これまで以上に道徳の指導と学びをどのように評価すればいいのかに関する議論が高まっている。考え、議論しながら主体的・対話的に深く学んでいく道徳授業と学びをどのように評価していけばいいのだろうか。逆に言えば、評価によって道徳の指導と学びの何が、どのように変わることになるのであろうか。このような問いを立てていくと、道徳科の指導と評価は極めて緊密な関係にあり、指導と評価はいわば一体化した関係にあることが分かる。そして優れた道徳授業の指導と学びが正当に評価され、その評価によってさらに道徳授業の改善がなされることが道徳科の授業実践には欠かせない。

さて、2016年の「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」では、以下のような4つの評価視点が提示されている。

- ①個々の内容項目ごとではない大きくくりな評価
- ②児童生徒の成長を積極的に励ます評価
- ③多面的・多角的見方へ発展しているかと、価値理解を自分との関わり中で深めているかに着目した評価
- ④学習活動の具体的取組を一定のまとまりで見取る評価

これら4つの評価に基づいて、単に一時間の道徳授業の学びの成果の評価だけではなく、児童生徒の学びの発展の様子を見取り、学びのあり方を評価し、個々の子どもの向上した姿を評価し、それを道徳科の指導の改善に結びつけていくためには、どのような授業方法があるのかを論議していく。

このような課題研究を行うため、すでに優れた授業実践を通して指導と評価のあり方に取り組んでおられる実践家と、長年にわたり道徳の評価方法について論究しておられる研究者との双方向の議論を通じて、道徳科における指導と評価の一体化の課題と、今後の道徳科の方向性について様々な角度から考えてみたい。

◇ 登壇者

後藤 和之（宮崎市立宮崎東小学校）
中山 芳明（京都市立藤森中学校）
西野 真由美（国立教育政策研究所）
富岡 栄（麗澤大学）

◇ コーディネーター

小川 哲哉（茨城大学）